

| 教育目標 | | 元気でよく遊ぶ、心あたたかい子どもの育成 | | | | | | |
|------------|------------|---|---|---|---|---|---|--|
| 保育の視点 | | 心豊かに自ら遊び込む子どもを目指して ～『自立』を支える教師の援助～ | | | | | | |
| 項目 | 重点項目 | 具体的施策 | 達成目標 | 自己評価 | 成果と課題 | 改善策 | 学校関係者評価 | |
| 学力の向上 | 教育課程 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の再編成 ・子どもの豊かな心を育む保育の実践 ・幼小の連携を意識した保育の展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・3年保育4歳児の教育課程を重点的に、また、3、5歳児についても見直ししていく。 ・「豊かな心」を育むための教師の援助や環境の構成を工夫しながら保育を行い、教師間で定期的カンファレンスをして学びを深める。 ・幼小連携を図るために職員同士が互いの授業や保育を見合う機会を設ける。また、園内研究会などを通して学びを深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の子ども姿から職員で意見を出し合い、教育課程を再編成する。 ・園として目指す子供像を具体的にあげ、研究テーマを全職員で共通理解する。 ・短期案に保育実践の記録を書き、2週間に1回話し合いの機会を設ける。 ・事例研究を学期に1回行い、「豊かな心」を育むために必要な教師の援助と環境の構成を教師間で話し合う。 ・園内研究会を学期に1回設定し、共同研究園や地域の幼稚園・保育所・小学校の教職員と一緒に学ぶ機会を設ける。 ・幼小の職員で意見交換を行い、それぞれの授業や保育に活かす。幼小交流の計画を元に実践する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに教育課程を見直すことができた。また、担任が中心となって話し合う機会を設け、各学年の姿について話したり縦の繋がりに関しても見直したりすることができた。 ・短期案の実践記録や学期に1回の事例研修で、職員間で子供の姿を共有したり必要な教師の援助や環境の構成について話し合ったりすることができた。また、実践記録や事例研修を通して、年齢ごとに必要な教師の援助や環境の構成の違いが見えてきた。 ・園内研究会を学期に1回ずつ実施し、共同研究園、ブロック内の保育所・小学校の教職員に参加していただいた。一緒に学ぶ機会を設けることで、保育について色々な視点からカンファレンスを行うことができた。 ・園内研究会の中で保育を参観してもらったり小学校の授業見学をさせてもらったりし、互いの子供の育ちを見合うことができた。 ・今年度は子供同士の交流を積極的に行うことができた。交流前後に職員間で内容や子供の姿について話し合う時間をもち、次の実践に活かしていくことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・担任同士で話し合う機会は多く取れたが、あざかり保育をしていると職員全員で話したり意見を言い合ったりする機会がなかなか取れなかった。必要な事は回覧して確認すると共に、要点を絞って話し合いの場を設けていく。 ・「豊かな心」を育むために必要な教師の援助と環境の構成に関して、わかったことを職員が子供に関わる際に意識し、実践していく必要がある。 ・ブロック内の小学校や私立幼稚園、保育所の教職員にも参加してもらえるように呼びかけ、今後も取り組みを進めていく。 ・業間交流では3・4歳児も小学生と交流をすることができた。今後も継続的に交流を進めていくためにも、教師間の共通理解に努めることを引き継いでいく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校との交流・連携はとても刺激になるので続けてほしい。 ・異年齢交流を通して豊かな人間性が培われている。 ・コロナが落ち着いたら交流・連携を深めてほしい。 ・遊びや歌・絵本の読み聞かせ等の様々な体験を通して学力が向上している。 |
| | 研究推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立 ・感染症予防に努める | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿や実態を把握し、担任と養護教諭が連携し、保健指導(ほけんの話)を行う。また、その内容を基に、げんきカレンダーにも取り組んでいく。 ・園児への保健指導、保護者向けのほけんだより等で生活習慣について家庭でも考えられるよう啓発していく。また、より意識して取り組むことができるよう、げんきカレンダーを実施する。 ・「自分の体は自分で守る」ことを意識できるよう、視覚的教材等を活用し、啓発しながら自分の身体について興味関心をもちながら、感染症予防に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活の中で正しい生活習慣が身につく、子ども自身がその大切さに気づき、自らすすんで取り組もうとする。 ・保健指導を行っていくと共に定期的に家庭と連携を取りながらげんきカレンダーに取り組んでいく。 ・コロナ禍での体調管理をはじめ、規則正しい生活習慣を身につけ、自ら、感染症予防ができるようにする。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児を中心に手洗いうがいや歯磨き指導を継続して行い、基本的な生活習慣の確立に努めた。また、学期に2回はほけんの話を行うよう取り組んだ。 ・ほけんだよりを通して家庭に啓発すると共に夏休みにげんきカレンダーを実施し、家庭と連携して取り組んだ。 ・保護者アンケートにおいて「子どもはウイルスに対して自ら自分の体を守り、しっかりと手洗いうがいやマスク着用などに励んでいる」についてのA評価が44%となっていることから、子ども自ら感染症予防ができるようもっと意識づけていく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、担任と養護教諭が連携して保健指導を行っていくと共に、子どもの実態や課題に応じてほけんの話を行っていく。 ・基本的な生活習慣の確立に向け、定期的にほけんだよりやげんきカレンダーを発行して家庭と共に取り組んでいく。 ・手洗いうがい、消毒、マスクの着用など、子どもがその大切さや必要性を理解して自ら感染症予防に取り組めるよう啓発、指導していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・手洗いうがい消毒マスクの着用など基本的な生活習慣が定着している。 |
| 豊かな心・健やかな体 | 健康教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりや伝え合いに視点を置いた保育実践 | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども、保護者ともに互いに認め合える人間関係を築くことができるよう園が拠点となって呼びかけていく。 ・飼育、栽培の機会をもち、収穫の喜びや命の尊さ等を共有していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもへは日々の生活の中で自分の気持ちや友達の思いなどが振り返り気付く機会をもつ。 ・保護者へは学級懇談会や研修の機会に自身の子育てを振り返り、いろいろな立場の人の考えに触れられるような場を設定する。 ・花や野菜の生長や身近な生き物の命に思いを寄せられるよう、環境を整える。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の思いを読み取る大切さを職員間で共通にし、一人一人の気持ちを大切にする保育に努めた。 ・「子どもの権利条約」について全保護者を対象に書面研修を呼びかけ、学級懇談会を通じて、様々な考えに触れてもらい、子育てにも関わるものであるということを知ることができた。 ・夏には野菜や花を、冬には春に咲く花を栽培している。各クラスで飼育物もいるが、幼児が飼育栽培の準備や日々の世話をする機会をあまりもてていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も一人一人を大切に保育に努められるよう、教師間で共通理解を図る。 ・書面研修だけでなく、語り合う大切さを感じたので、コロナ禍においても研修や懇談会が行えるよう工夫することが必要である。 ・飼育、栽培活動ともに幼児とともに進めるよう保育に取り入れていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・友達と助け合い友達を思う態度がうかがえる。 ・個人差はあるが生き物を大切に育てる事に積極的な姿が見ることが出来た。 |
| | 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの特性に応じた保育の実践 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解に努め、子ども同士のつながりや一人一人の育ちにつながるよう支援していく。 ・地域の特別支援教育の拠点として、特別支援教育に関する保育や情報を積極的に発信する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿に応じて、具体的な支援方法や保育内容を検討し、実践する。また、保護者と園の取り組みや家庭での様子を伝え合い、園と家庭が連携して子どもを支えることができるようにする。 ・コンサルテーションを活用し、園内だけでなく他方面からの子どもとらえと支援方法を検討していく。 ・にじいろ広場の保育の様子を地域の就学前施設に公開し、参加を呼びかけたり、にじいろ広場での子どもの姿や遊びのねらいを保護者や地域の教職員に伝えたりする。 ・保護者研修会を実施し、保護者、教職員共に子どもとの関わりや支援方法をより深く学ぶ。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・担任と担当者が中心となって子どもの育ちを発信することで、職員全員が連携し、子ども一人一人の育ちや課題を共通理解しながら関わることができた。 ・また、保護者にも園での様子や取り組みを伝え家庭での様子も聞くことにより、園と家庭が連携することができた。 ・コンサルテーションを4回と巡回相談を活用し、他方面から子どもとらえと支援方法を学ぶことができた。 ・7月からにじいろ広場の保育公開を行ってきたが、他園から延べ3名の教職員が見学に来た。保育中や保育後に遊びのねらいや遊具の使用法等、特別支援の情報を伝えることができた。 ・にじいろだよりを5回発行し、保護者に遊びの意義を発信することができた。 ・2学期に保護者研修会を実施し、保護者教職員共に、子どもとの関わり等をより深く学ぶことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コンサルテーションや巡回相談など園以外の他機関からの学びはとても有効であったので、来年度も活用し、子どもの育ちを支えていく。 ・今年度も遊具や書籍の貸し出しを行ってきたが、利用者が少なかった。遊具の貸出しに関しては0だった。今後にもじいろ広場の保育公開を行う中で、保育内容のねらいや遊具の使用法等を積極的に発信していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も小学校と特別支援学級等の取り組みを学び合い園でのにじいろ保育を活かしてほしい。 |
| 開かれ信頼される学校 | 保護者・地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育等子育て支援の充実を図るため、さらに保護者、地域、園の連携を強める ・コロナ禍での保護者との連携の取り方を工夫し、園の様子を発信することで園教育への理解を図ると共に、必要に応じて気軽に子育ての話ができるような体制を作る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・担当者や担任と必要な引き継ぎを行うことで連携を密に図り、必要に応じて各職員もサポートに入って共に子どもの様子を見ながら共通理解を図る。 ・子ども達がいまいきいきと遊ぶためには環境が大切であることを伝えると共に、園芸サークルやクラフトサークル等、保護者と一緒に園の環境整備を行う。 ・スライドショーの実施、HPの | B | <ul style="list-style-type: none"> ・職員間で連携を取り合い、必要に応じて預かり担当以外の職員も関わりながら預かり保育の充実を努めた。保護者の就労が増加傾向にあり、預かり利用者も日々増えていっている。今後も安全管理に配慮しながら取り組んでいく必要がある。 ・花壇の整備、絵本返却時の関わり、掲示板の装飾等、サークル活動を園の環境整備や保育と絡めて保護者の力を園教育に活かせるよう取り組んだ。 ・様々な方法を工夫して園の様子を発信するよう努めた。しかし、保護者アンケートにおいて「幼稚園は、開かれた園として職 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き担当者との連携を密に図り、担当者を中心に必要に応じて全職員で預かり保育に関わることで子育て支援の充実に取り組んでいく。 ・今後も保護者の得意分野を活かして保護者の力を借り、保護者と連携を取りながら園をよりよくしていく。 ・今後も引き続き、コロナ禍での保護者との連携のあり方を探り、工夫して取り組んでいく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・HPや園だよりクラス便り等情報発信の方法を工夫し、保護者・地域とつながっている。 ・コロナで保護者の活動が制限さ | |

| | | | | | | | | |
|------|---|---|--|--|---|---|--|---|
| 園 | 携 | | | <p>定期的タイムリーな更新、配布手紙、写真掲示等、その時々に応じた方法を工夫し、園の教育や大切にしていること、園児の様子等を発信する。</p> | | <p>員に子育てや保育についての相談や話がしやすい環境である」についての A 評価が 37%となっていることから、発信以上に保護者からの話や相談等を受ける受容についてのほうが課題である。</p> | | <p>れる中つながりを求めている保護者とのコミュニケーションをとる工夫が必要。</p> |
| その他 | 安全管理 | <ul style="list-style-type: none"> 安全で過ごしやすい生活の場としての環境作り 感染拡大防止への取り組み | <ul style="list-style-type: none"> 安全点検日を園だよりに記載して位置づけ、職員の意識向上を図る。 様々な場面を想定した避難訓練を行い、安全について子どもと考える機会を定期的に設ける。 保護者、地域と共に安全な環境作りに努める。 定期的な消毒、換気を行い、感染防止に努めると共に、その時々状況に応じた保育の工夫、行事の持ち方の検討を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 定期的に安全点検を行うことで、全職員が目で見ながら安全管理に努め、遊具や用具、園庭や保育室内を常に安全に保つ。 学期に1回以上の避難訓練を実施し、子どもが自分で自分の身を守る方法を知る。 保護者や地域の方の協力も得て園庭清掃に取り組む。(6月・8月・3月予定) 市の方針の下、感染防止対策を適切に行う。 感染防止への意識が高まるよう保護者に必要な啓発を行っていく。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 定期的に安全点検を行って全職員で安全管理に努め、修理修繕が必要な箇所等については早期に対応できるよう努めた。 大雨、火災、不審者、地震と様々な事態を想定して定期的に訓練を実施した。子ども達は毎回の訓練を通して教師の指示を聞いて落ち着いて行動する姿が見られ、自分で自分の身を守る意識が高まった。 緊急事態宣言等の影響で予定していた時期に園庭清掃を行えなかったが、時期を見て必要なときに保護者や地域の有志の方の協力を得て園庭清掃を行い、環境を整えることができた。 消毒や換気等日々の感染症対策の実施、感染状況に応じての行事の持ち方等の工夫、健康観察等家庭と連携を図りながらの感染防止の取り組みに努め、家庭と共に感染拡大防止に取り組んだ。 | <ul style="list-style-type: none"> 今後も月1回の安全点検を実施し、全職員で安全管理に努め、意識向上を図っていく。 定期的な訓練を引き続き行うと共に、登降園での交通ルール等日々の身近な安全指導を意識して行っていく。 今後も保護者や地域の方の協力をいただいて園庭清掃を行う等、安全な環境作りに取り組んでいく。 今後も感染状況に応じた感染対策を行い、家庭と連携を図りながら感染防止に努めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 子ども達ののびのびと安全に遊べる環境作りが出来ている。 |
| 総合評価 | <p>(関係者総括)</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナにより就学前施設との交流がなくなり、子どもも職員も学びの機会がなかった事が残念。 今年度は、やきいも大会・伝承遊びの会に参加しましたが、子ども達は生き生きとし活気にあふれていました。特に伝承遊びでは子ども達の興味関心が高く子ども達同士で教え合ったり助け合ったりする場面もありました。日常的に仲間づくりがなされているように思いました。先生方の子どもへの熱意と愛情に子ども達が答えていると思えました。教育目標が概ね達成されています。 (今後の取り組み、改善点) コロナ禍で地域や保護者との連携のあり方が課題となる。 コロナ禍であっても保護者支援の方法を工夫し、子どもも保護者も安心して通える幼稚園作りに努める。 就学前施設の拠点園として、さらなる幼小連携や特別支援教育・研究の発信を行う。 | | | | | | | |